議事要旨

1 会議名	令和７年度第２回吹田市ごみ減量再資源化推進会議
2 次第	1 市からの報告 (1)令和7年8月に開催したフードドライブの取組結果 (2)令和7年 10 月に実施したてまえどりキャンペーン結果 (3)SAF(持続可能な航空燃料)の普及促進について 2 ディスカッション (1)ごみ減量に向けた取組について(食品ロス及びプラスチックごみ削減、サーキュラーエコノミー実現に向けた取組など) 3 その他
3 開催日時	令和８年３月 16 日(木曜日) 午後３時から午後４時30分まで
4 開催場所	吹田市役所本庁舎 中層棟３階 リエゾンルーム (Zoom によるオンライン出席者あり)
5 出席委員	会長:1名 学識経験者:1名 市民:6 名 事業者:6 名 行政:3名 【合計:17 名】
6 発言等の要旨	次第1 市からの報告 (1)令和7年8月に開催したフードドライブの取組結果【資料1】 【事務局】 前回開催時(令和7年1月)から提供人数、品数、重量すべてにおいて減少。令和5年度以前と比較して半減している理由として、次の3点が影響していると分析した。 ①必要な量だけ購入するという食品ロス削減の啓発が一定浸透。 ②フードドライブという取組の浸透により、 各スーパー店頭の常設コーナーや、福祉施設への直接寄付等、提供先の選択肢が増えた結果、相対的に市への提供数が減少。 ③昨今の物価高による買い控え(今回は玄米・精米の提供は無し)。 物価高、特に米の価格高騰の影響は大きいと考えるが、今後、景気が上向いて来ても食品ロスが増えないよう、啓発を継続していきたい。 【会長】 意見等あるか。 【事業者1】(株)平和堂 現在、30 店舗で「場所貸し」という形で常設のフードドライブを実施している。 【事業者2】ダイエー 市内の6店舗のフードドライブで、年間2，222kgの寄贈を受けた。

	(2)令和7年 10 月に実施したてまえどりキャンペーン結果【資料 2-1、2-2】 【事務局】 　てまえどりについて、スーパーやコンビニの店頭にて、ポスターや広告を掲示し、市民に呼びかけるキャンペーンを、今年度も 10 月に1か月間実施し、当会議に出席されているスーパー様を中心に 12 社の協力を得たので感謝申し上げる。 　キャンペーン終了後(12 月)に実施した、各事業者からのアンケート結果について報告する。 ○市提供のキャンペーン資材(ポスター・ポップなど)について 　半数以上の事業者で、10 月末のキャンペーンの終了後も継続して掲出されていた。 　また、店内のあらゆる場所に掲出していただいていたという印象。 　以前、別の市民対象のアンケートで、「てまえどり」の言葉自体の認知度が高かったが、スーパーやコンビニの店頭で長い期間、掲出していただいていることにより、日常的に目にする機会が増えて、認知度の向上にも繋がっていると思われる。 　また、啓発物のサイズは「大きい方が目立って効果がある」と考えていたが、大きすぎると売り場の値札が隠れてしまう、品出しの効率が悪くなってしまうというような現場の声をいただいた。 ○キャンペーンの効果について 　昨年度も同様の質問をしたが、今回もやはり啓発効果を具体的な顧客の構造変化や、廃棄量の変化で数値的に表すのは難しいということだった。 ○キャンペーンに関する自由記述意見について 　啓発物のデザインを吹田市らしいものにしたほうがよりお客様の目を引けるのではないかという意見があり、来年度に向けてデザインの変更を検討中である。 【会長】 　アンケート結果はとても興味深く拝見した。特に、店舗従業員への教育実施や、廃棄間近の値引き商品(他社含む)を購入した回数や家庭で食品ロスを出さなかったかをポイント化して表彰を行うなどの取組は、驚きである。 　また、キャンペーン効果を数値化するのは難しいとのことだが、アジェンダ 21 すいたやくるくるプラザなど、市民から市民へ聞いていく形で行動変容や意識調査をすれば新たな情報が出てくるのではないかと思う。 【市民1】アジェンダ21すいた(水川氏) 　今後、何かお店の方と一緒に取り組めることがありましたら、ぜひご一緒させてもらえるとありがたい。 【会長】 　市民団体との連携など、行政を通じてご提案いただけると良いと思う。 (3)SAF(持続可能な航空燃料)の普及促進について【資料3】 【事務局】 　昨年 3 月、SAF の原料となる廃食用油回収の取組を拡大することを目的とした「持続可能な航空燃料の普及促進に関する連携と協力に関する協定」を締結し、様々な取組をこの 1 年間行ってきたが、回収量が急減に増加したという状況にはなっていない。そこで、今までの啓発に加え、事業者や若い世代など、幅広く広めていく必要があると

	考え、環境省による「令和7年度地域の資源循環促進支援事業　自治体 CE 診断・ビジョン作成」に応募し、専門家による助言を受けながら SAF を中心とした地域でのサーキュラーエコノミー実現に向けたモデル循環図を作成した。 　もともと、回収した油がSAFへ再資源化されるという循環だけでなく、市内の事業者や自治会とともにイベント的に回収を行ったり、大学生と啓発方法について一緒に考えたり、SAF をきっかけにペットボトルや雑がみなどの他の物の再資源化についても市民に再認識してもらい、積極的に参加していただく形を理想としている。 　特に、今日参加いただいている事業者のうちスーパーについては、市民の利便性が非常に高いため、ぜひ廃食用油の回収ボックス設置についてご協力いただきたいと考えている。 【保健給食室】 　協定締結を受け、令和 7 年度から市内の小学校 35 校の給食調理で出た廃食用油を SAF の原料へと供給を開始した。令和 7 年 5 月から令和 8 年 1 月までの実績で、約 24,400kg 回収・売却した。 【市民1】アジェンダ21すいた（水川氏） 　廃食用油の有効利用として、先日開催された「すいた環境教育フェスタ」で、「こねこねせっけん工作のワークショップ」という、廃油を 80％含んでいる粘土細工のようなものだが大変人気があり、楽しく啓発活動ができるので、今後も取り組んでいきたい。 　また、家庭から出る油の 9 割ほどが廃棄されてると聞いており、回収に協力したいが、やはりスーパーさんに回収場所があれば、買い物ついでに持っていけると思うので、ぜひ設置していただきたい。
	次第2　ディスカッション 　ごみ減量に向けた取組について （食品ロス及びプラスチックごみ削減、サーキュラーエコノミー実現に向けた取組など） 【事務局】 　3年ほど前にも、ごみ減量に向けた取り組みをご報告いただき、意見交換したことがあったが、また状況が変わっていると思われ、改めて意見交換を今回の議題とさせていただいた。 　意見交換にあたって、事前にアンケートをお願いし、現在取り組んでいること、今後取り組みたいことや課題、他の皆様に質問したいことについて頭出ししてもらったものを、ある程度事務局で分類したものが資料 4 の「事前アンケート『ごみ減量に向けた取組について』回答一覧」になっている。 　本日はこの資料をもとに、情報共有、意見交換をしていただきまして、スーパー様が現場の生の声や、生活者としての市民団体の皆様の感想などをお聞かせいただくことで、行政だけではなく、事業者様、市民の方がそれぞれ、何か今後の取り組みについてのヒントや方向性を見つけていただければと考えている。 【会長】 　なにか質問・意見はあるか。 　たとえば、フードドライブについて、市だけでなく事業者も取り組まれていることから一定浸透していることがうかがえるが、市としても続けたほうがいいと思うか。事業者

	の取組について、何か補足で発言はないか。 【事業者2】ダイエー 　フードドライブについては報告しているように一定増えてきている。SAF については良い取組だと思っているが、グループ全体での取組をするにあたってはいろいろと縛りがあるという状況である。 【事業者 1】(株)平和堂 　現在、食品リサイクル(加工段階で出る食品残渣のリサイクル)を実施する店舗を増やすことに注力している。 　衣料品の回収については、マナーを守ってもらえるともっと回収率が上がると思っている。たとえば、対象外の物が入っていたり、袋から出してもらうことなど。 【事業者1】山崎製パン 　工場ではどうしでもクリームや生地などに余りが出てしまう。これをメタン発酵の形でリサイクルしていたが、昨年6月からクリームと生地をきっちり分別することで、生地については家畜の飼料としてリサイクルできるようになり、よりしっかりしたリサイクルにつなげていけるようになった。 　今後の課題は、廃プラスチック(クリーム、あんこがついてしまっている容器など)の再資源化で、難しいとは思うが取り組んでいきたいと考えている。 【会長】 　市民、消費者の立場だと、商品の袋が取り出しやすい、分別しやすい仕様になると、もっとリサイクルが進むと考えるので、無理難題とは思うが、商品開発の段階でも検討いただければと思う。 【事業者3】ライフコーポレーション 　食品ロス削減については、店舗では、販売期限は過ぎたけど賞味期限は残っている食品がどうしても出るため、吹田市児童部と協力して、子供食堂へ提供するための協定締結に向けて調整を進めているところ。廃油の回収については、近畿圏の店舗の1/3 程度で行っている。お惣菜調理で出た油の回収と一緒に回収業者に回している。吹田市内の店舗ではまだやっていないが、まもなく開店する緑地公園店で実施する予定なので、ぜひ回収協力いただければ。 　衣料品の回収は年2回、衣替えの時期に実施(1 か月間)。東西合わせて 100tを超える衣料品を回収し、リユースや工業用ウェスなどにリサイクルされ、その収益金が全額子ども食堂へ寄付していることが評価され、来店動機にもつながっている。 　また、最近は小学校への出前授業について、食育や環境に関しても行っている。 【事業者4】ダスキン 　食品部門のすべての廃棄食品・原材料については、全国的に飼料化を行っている。 　廃食用油については、工業用ボイラー燃料や飼料、海外での SAF 原料になっているのが現状。 　どうしても新商品が出るタイミングで出る原材料の残り対策としては、なるべく出ないように物流の部分でコントロールしている。

	プラスチックは現在バイオマス化を進めているが、一時期、ストローを紙製に変えたがお客様からの要望を受け、現在はバイオマスストローに変更。その他のプラスチックについても削減計画を進めている。 今後の課題としては、ワンウェイプラスチックについてマテリアルリサイクルを進める部分で模索をしており、各自治体と話をしながら情報収集しているところである。 【会長】 具体的にはどういったことか。 【事業者4】ダスキン プラからプラに変換していきたいところだが、ワンウェイプラスチックは回収するコストや循環して別の物に変えていくことがコスト面も含め難しい。 たとえばモップが入っている袋など、どうしても捨てられてしまうパターンが多く、これを再度使えるように、またはごみ袋などに再資源化したいが、コスト面で難しいということだ。コストがかかると商品価格に反映されてしまうので。 【事業者団体】商工会議所 ごみ減量の取組ではないが、敷地内にある自動販売機の回収ボックスに、家庭ごみを入れられることが多く困っていたところ、業者に相談し、回収口を下から入れる形のボックスに変えてもらうと効果があった。他のところでも増えていけばいいと思う。 【会長】 今日ご欠席の事業者からもたくさん意見をいただいた。様々な取組をしていることがよくわかった。 これに対して、サーキュラーエコノミーを進めるうえで、市としての意見をお願いしたい。 【事務局】 冒頭、説明した SAF については、まず知っていただくことだと思っている。スーパーさんについては回収ボックスの設置についてなかなか難しいところはあるが、たとえばイベント・試験的にもできればと思うので、個別にご相談させていただきたい。 【学識経験者】大阪学院大学（鴻巣教授） フードドライブについて、提供数が減ってきていて、一方で事業者さんのほうでは積極的に進められている。行政は、情報共有や中間支援的な役割も重要なので、民間事業者と何かやりたいと思っている自治会の支援やつなぐ役割があるので、たとえばフードドライブについてどこが情報を握っているのか、教えてもらえれば。 【事務局】 環境部としては、スーパーさんでもフードドライブを始められているという情報を得て、ホームページなどで広報しているところだが、食品ロス対策としては、余りが出ないように上手に買い物してもらうという側面がある一方で福祉的な観点もある。そこのマッチングについてはどの部署がやるべきかという協議はあるが。

	【福祉総務室】 　国や市の動向としては、地域共生社会の実現に向けた取り組みを行っているところ。その中で、様々な主体との連携も求められている。 　フードドライブ等に関して、現在福祉総務室で具体的な取り組みは行っていないが、社会福祉協議会ではフードドライブで受け取った食品の配布をしていただいている。 　使用済み油の回収の取組についても、社会福祉協議会と連携できる可能性があるかもしれない。 【社会福祉協議会】 　社会福祉協議会では地域福祉活動の推進を行っている。多様な取り組みがある中で、昨今は福祉施設との連携も大きな課題となっている。 　フードドライブに関する取組については、近年、連携を行う事業所が増えるなど、急速に広がってきている印象。年間で約 10 者の事業者からフードドライブの食品を預かっているが、このうち約8者からは定期的に頂いている。頂いた食品は子ども食堂や生活困窮者に配布して活用しており、コロナ渦では学生支援においても活用していた。 　一方で、各事業所で集めた食品の効率的な回収や、子ども食堂以外の配布先のマッチング方法については課題がある。 　SAF の取組については、複数の福祉施設で構成する連携団体があるため、このような場を活用して周知することは可能。 【会長】 　様々な意見があったが、全体に共通して「どう見える化するか、繋ぐか」がポイントだと感じた。各団体で取組を行っているものの、見える化ができていな部分もある。市の説明の中ではサーキュラーエコノミーの実現に向けたモデル循環図も示されたが、実は既に様々なところでかなり取り組まれている。それを見える化して、どう繋いでいくか、橋渡しをしていくかということも重要だと感じた。今後も意見交換を重ねてサーキュラーエコノミーの実現に向けて努力できればと思うので、引き続きよろしくお願いしたい。 ---------- 次第4　その他 　特になし